資料1-1

平成３０年度　グローバル教育推進委員会　進捗状況等

本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをとおした学習のあり方について	事業内容	高知南中学校・高等学校（グローバル教育プログラム）

概要・目的

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、これまでの研究を踏まえた実践の充実・普及と、開校する高知国際高等学校への継承をイメージして協議する。

P　平成３０年度の当初計画

研究の充実･普及　3つの方向性と7つの方策

中高一貫校として本校が取り組んでいる「主体的な学びや協働的な学び」がキャリア教育を発展させ、グローバル人材の育成につながるように、本年度はカリキュラム・マネジメントを視点とし、学校教育活動全般の改善を目指す。

探究型学習プログラム＋英語教育プログラム　協働による目標達成

方向性①

学校は教科会やチーム会を活性化する

1．高知南が目指す「グローバル人材」を再確認し、育てたい資質・能力を教科横断的に育成する授業づくりに学校全体で取り組む。
2．組織的・協働的な授業づくりを目指し、教科会、チーム会を活性化する。

方向性②

授業者は指導と評価の一体化を目指す

3．生徒との目標の共有、目標達成につながる学習活動の設定と評価を通して、学習指導の改善を行う。
- 生徒の学びのプロセスを見取る。
- 目標に沿った評価方法を研究する。
- 英語科で学習到達目標（CAN-DO リスト）とルーブリックを活用する。
- グローバル教育校内研修会において教科横断型の研究協議を行う。
- 主体的な学びにつながるよう、生徒の振り返りの手立てを工夫する。

D　平成３０年度の取組状況

・グローバル人材育成のための「主体的な学びや協働的な学び」について、全教職員が共通の手法・考え方を基礎として教科ごとに工夫改善を行い研究を進めていけるよう、「探究型学習プログラム」と「英語教育プログラム」に取り組んでいる。

取組①

〇学校全体

・「授業づくりのポイント」に基づく授業実施
1）本時の学習目標の共有。2）生徒個々の思考をもとに学習を深め課題を追究させる。
3）全員の学習目標達成状況の把握。4）本時の学習目標に対するまとめをする。

〇教科会

・全教職員が、本年度の授業改善校内研修会における公開授業（年間１回以上）について、授業の目標や内容、振り返りなどの実践について、月別教科会で共有した。

★1〈第２回探究型学習に関する教職員アンケート（12 月)〉※（　）は第１回（7月）の割合
「主体的・対話的で深い学びを実現する授業について、校内の他の教員と話したことがある。」
→肯定的回答 81.5%（76.1%）
「教材研究や授業づくりについて、校内の他の教員と相談し合っている。」
→肯定的回答 83.1%（83.6%）

・グローバル教育発表会（11 月 14 日）の公開授業について、各教科会において単元で生徒に付けたい力を明確にし、授業のゴールを生徒と共有すること、思考力・判断力・表現力の育成を視点に置いた展開の工夫をすること、そして生徒自身が学んだことを適切に振り返ることを授業の基本的な考え方とし、各教科会で教材研究や指導方法の検討を行い公開授業を行った。

★2〈発表会　校外参加者　公開授業参観アンケートから〉「探究型学習」
「単元のゴールに向けて本時の目標が達成できるよう、指導を工夫している。」→肯定的回答 90.2%
「生徒が、主体的に学習ができるような教材づくり･授業づくりができている。」→肯定的回答 90.2%
「生徒は、仲間と活動したり、対話したりする中で、単元ゴールに向かっている。」→肯定的回答 88.5%

★2〈発表会　校外参加者　公開授業参観アンケートから〉「英語教育プログラム」
「単元のゴールに向けて本時の目標が達成できるよう、指導を工夫している。」→肯定的回答 100%
「生徒が、主体的に学習ができるような教材づくり･授業づくりができている。」→肯定的回答 100%
「生徒は、目的をもって英語を使っている。」　→肯定的回答 100%

取組②

〇探究型学習プログラム

・探究型学習推進チーム推進員は、チーム研修会（8 月 2 日実施）での協議内容等を踏まえ、「生徒の思考力・判断力・表現力を育成する指導方法の研究」、「生徒の学びを適切に見取る評価方法の工夫」を具体的に盛り込んだ実践研究案を作成し、９月以降、授業実践研究を行った。その際、生徒の学びを見取る評価シート等を作成するようにした。
・探究型学習推進チーム推進員は、授業実践研究に関わり、それぞれで作成し、実践した学習指導案と評価表等を用いて、探究型学習推進チーム会（11 月 28 日実施）で、授業実践について教科横断的な報告会を行った。

★3〈第２回探究型学習に関する教職員アンケー（12 月)〉※（　）は第１回（7月）の割合
「日々の授業において、毎時間目標を設定し、生徒と共有している。」→肯定的回答 84.6%（77.6%）
「日々の授業において、毎時間、生徒自身が振り返りを行っている」→肯定的回答 55.4%（46.3%）

C A　成果（☆）、課題（●）、今後の取組（→）

・グローバル人材育成のための「主体的な学びや協働的な学び」について、全教職員が共通の手法・考え方を共有すると同時に、教科毎に特性を生かした指導方法、評価方法を構築していく。

課題①

<グローバル人材育成を目指した組織ごとのベクトル合わせと進捗管理>

☆学力向上、授業力向上に関する教科会の定例化（月１回行事予定表に記載）

☆探究型学習推進のためコーディネーター役に「探究型学習推進員」を位置づけた。

●授業改善についての協議を学校全体で恒常的なものとする必要がある。
→教科会を機能させるための組織改善を行う。(学校目標に沿った協議内容の決定など)
→本年度の取組について、年度末教科会で検証し、本年度の取組課題を年度計画に反映させる。
→次年度も月別教科会の定期開催を継続し、取組についての共有・協議・改善を更に進める。
→本校が目指すグローバル人材の育成に係る、全教科共通の目標（思考力・判断力・表現力や主体的に取り組む力の育成）の共有や課題についての協議を、全校研修や学年会、探究型学習推進チーム、英語教育推進チーム、教科会で行う。
・特に教科会は、教科としての目標の共有や本年度末に検証した取組課題についての協議を各月及び各学期で設定し行う。

（平成 30 年度学校評価生徒アンケート集計結果(12 月)）※（　）は肯定的評価（6 月）の割合
「学校は学校行事などをとおして自主性を育てることができていると思いますか」
中学校 89.2%（85.7%）・高校 82.7%（87.8%）

●教科で付けたい力を明確にし、思考力・判断力・表現力の育成を視点として授業づくりを考える必要がある。
→各自が実施した（実施する）授業についての視点や、生徒の学びについて教科で適切に評価、協議し改善につなげる。
・「探究型学習に関する教職員アンケート」（教科別）の活用
・「英語教育プログラム意識調査」（対象：全学年生徒、中高英語科教員）の活用
・シラバスの確認・改善
改善の視点：単元の目標達成のため何をねらいとして指導し、どのように評価するか

課題②

☆探究型学習プロラム：評価研究をチーム会の中心とした取組とした。

☆英語教育プログラム：「CAN-DO リストとルーブリックを活用した指導と評価の一体化～４技能の育成を目指して～」を研究主題とした取組

●指導と評価の一体化を進めるための手立てについて、更に研究を進める。
→教科会で、生徒に付けさせたい目標の設定や、学習の振り返りをさせているかの検証・協議を行う。

平成 30 年度高知県オリジナルアンケート（第２回:9 月）から ※（　）は第１回（4 月）の割合
「学校の授業では、学習のねらい（めあてや目標）が示されている」→肯定的回答 72.0%(85.7%)

→次年度は、教科会・チーム会での協議を具体的な取組へとつなげるために、グローバル教育の視点、生徒の論理的思考力・判断力・表現力育成の目標設定と観点別評価の在り方について、年間３回授業改善校内研修会を外部講師を招き実施する。
→本年度の意識調査を分析し、協議内容を次年度の取組に反映させる。

平成３０年度　到達目標

・グローバル人材として活躍できる資質・能力を身に付けた生徒を育てるために、学校教育活動全体の繋がりを意識して組織的・協働的な授業改善を行うことができる。　・論理的思考力や判断力、表現力を育成する。
・学校評価項目の学習及び学校行事について、生徒、保護者の肯定的評価「そう思う」の評価を高めるよう取組の質を高める。
・学習に関する項目(授業が理解できているか)で「そう思う」20%以上→H29:15%/肯定的評価全体約 75%、学校行事に関する項目(自主性を育てるものとなっているか)で生徒、保護者各グループで+5%以上→H29:35%、19%/肯定的評価全体約 85%

資料1-2

平成３０年度　グローバル教育推進委員会　進捗状況等

本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをとおした学習のあり方について	事業内容	高知南中学校・高等学校（グローバル教育プログラム）

P　平成３０年度の当初計画

研究の充実・普及　3つの方向性と7つの方策

方向性③

学校は研究成果を普及・発信する

4. 教員の授業づくりに対する意識の変化や、生徒の学びに関する変容を見取るために、意識調査等を実施し、分析する。
5. 県内の教員のニーズに応えられるよう、教材研究や授業づくり、評価のポイント等の資料を作成する。
6. グローバル教育の具体的な取組を発信するために公開授業を実施する。
7. 高知国際中学校・高等学校との連携を進める

D　平成３０年度の取組状況

・グローバル人材育成のための「主体的な学びや協働的な学び」について、全教職員が共通の手法・考え方を基礎として教科ごとに工夫改善を行い研究を進めていけるよう、「探究型学習プログラム」と「英語教育プログラム」に取り組んでいる。

○英語教育プログラム

・CAN-DO リストと単元を関連させた指導について公開授業を行った。教科会で、その成果と課題を報告することが、英語教育プログラムの方向性の確認につながった。

・CAN-DO リストやルーブリックの活用により、「生徒に付けたい力を意識した授業づくりをするようになった。」「単元や１時間のねらいが明確になった。」「ゴールと評価を生徒に示すことで、生徒は何のために何をどのように勉強したり取り組んだりしたらいいのか理解して臨むことができるとともに、フィードバックしやすい。」等の効果を感じている一方、生徒数が多い学級での評価の困難さ、ルーブリックの精度を高めること等の課題を感じている。科として PDCA を回すことを計画していたが不十分であったので、この点を計画的に行うことにより､教員の実践や困っていることを共有することができ、授業改善につながるのではないかと考える。

・高校３年生で、科目担当者間で育てたい力や取り組ませたいことを共有し、そのことに即した帯活動教材を作成し徹底したことが、意識調査での肯定的評価が向上に繋がっている。

・生徒の学びの振り返りについて、教員は肯定的評価が高くなったが、高校３年生の調査から見ると十分振り返らせているとはいいがたい。教科会で、授業実践と生徒の様子を基に、どのように学びを深めていくかについて、話し合う必要がある。

取組③

・探究型学習プログラムにおいては、知識構成型ジグソー法の授業に関するリーフレット及び資料集を作成し、英語教育プログラムでは、CAN-DO リストを活用した年間指導計画の作成に関する資料等を作成。

「平成 30 年度高知南中学校・高等学校グローバル教育発表会」
日　時：平成 30 年 11 月 14 日（水）
公開授業：国語（中 2）・数学（中 1・高 1）・英語（高 2）・保健（高 2）
公開授業：校外からの参加者　77 名

・本年度の発表会では、探究型学習と英語教育プログラムについて、上記５つの授業を公開し、グローバル教育の成果を広く発表した。公開授業では、生徒に育てたい力を明確にし、適切な授業の目標の設定と、思考力・判断力・表現力を育成する視点での展開の工夫、そして生徒自身の学習の振り返りを行うようにし、教員が生徒の学びを適切に見取る評価方法の工夫にも取り組んだ。

・朝日大学教授の亀谷みゆき氏や東京大学特任助教の飯窪真也氏を招き、公開授業後には、それぞれの教科で、生徒の「主体的・対話的で深い学びの実現」をテーマに教科別の分科会を行った。

・全体会では、高知工科大学教授の長﨑政浩氏にワークショップ形式の講演を担当していただき、その中で、高知南中高教員の実践発表をグループごとに行うことができた。発表を担当した教員は、これまで取り組んだグローバル教育の授業実践等について、参加者にプレゼンテーションを行い、特に他校からの参加者にこれまでの取組について理解してもらう機会となった。

高知国際中学校との連携

・【生徒交流】授業体験及び心の冒険教育実施（10/3）、弓道部合同練習会
・【教員交流】道徳教育公開授業（10/22）、道徳教育校内研修（11/13）

研究主題「CAN-DO リストとルーブリックを活用した指導と評価の一体化～４技能の育成を目指して～」

平成 30 年度英語教育プログラム教員の意識調査【中学校３名、高校８名】（平成 31 年１月）

（%）　　（　）は高３担当者

項　目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
単元の指導や１時間の指導において、バックワードデザインで授業を計画している。	100	92.8	100（100）
CAN-DO リストを単元の指導に関連させる。	53.3	92.8	100（100）
単元の始めに、単元のゴールを生徒と共有する。			72.7（83.3）
本時のゴールを生徒と共有する。	93.3	85.7	100（100）
評価規準に基づいて、生徒の達成状況を見取る。 **H30 ルーブリック等を活用して、生徒の達成状況を見取る。**（形成的評価・総括的評価）	60.0	71.4	72.7（66.7）
生徒が単元、または１時間の授業で学習したことを振り返る場面を設定する。 **H30　生徒が学習したことを振り返り、自分ができるようになったことや課題などを考えることができるよう、工夫している。**	60.0	35.7	**81.8（83.3）**
英語の授業において生徒に変容があった。	33.3	76.9	90.9（100）

平成 30 年度英語教育プログラム生徒の意識調査　【高校３年生 224 名】（平成 30 年 12 月）

項　目	第１回（５月）	第２回（12 月）
英語の授業では、課題に対して自分の考えを持っている。	58.5	65.9　（+ 7.4）
英語の授業では、積極的に英語を使っている。	56.7	64.2　（+ 7.5）
英語の学習は好きですか。	50.0	60.5　（+10.5）
学習したことを振り返り、自分ができるようになったことや課題などを考えている。	50.4	51.1　（+ 0.7）
英語の活動やテストなどでできなかったことができるようになるよう、工夫したり努力したりしている。	55.4	56.0　（+ 0.6）
ペアやグループ活動で話したことを通して、自分の考えを深めたり広げたりしている。	60.7	66.3　（+11.4）
英語で、聞く力を高めるために根気強く取り組んでいる。	54.9	66.3　（+11.4）
英語で、読む力を高めるために根気強く取り組んでいる。	62.5	68.6　（+ 6.1）
英語で、話す力を高めるために根気強く取り組んでいる。	54.5	66.4　（+11.9）
英語で、書く力を高めるために根気強く取り組んでいる。	63.4	71.3　（+ 7.9）
今年度４月より、英語で話されることが聞き取れるようになったと感じる。		74.5
今年度４月より、英語で書かれたことが読めるようになったと感じる。		81.7
今年度４月より、英語で話せるようになったと感じる。		61.4
今年度４月より、英語で書けるようになったと感じる。		65.9

C A　成果（☆）、課題（●）、今後の取組（→）

・グローバル人材育成のための「主体的な学びや協働的な学び」について、全教職員が共通の手法・考え方を共有すると同時に、教科毎に特性を生かした指導方法、評価方法を構築していく。

課題③

<検証方法の再検討と改善>

→教員の授業づくりについては「探究型学習に関する教職員アンケート」及び「英語教育プログラム意識調査」（生徒、英語科教員）を分析し、普及・発信の取組を改善する。

→来年度、生徒の学びに関する変容については、県オリジナルアンケートをベースとして中高で分析し、取組を改善する。

→上記の分析結果及び各教科の対応について教科会研修及び校内研修で共有及び協議を行う。

<本校の取組の普及・発信>

→グローバル教育発表会を普及・発信の場とするために実施内容・実施形態の見直しを行う。

平成３０年度　到達目標

・グローバル人材として活躍できる資質・能力を身に付けた生徒を育てるために、学校教育活動全体の繋がりを意識して組織的・協働的な授業改善を行うことができる。　・論理的思考力や判断力、表現力を育成する。

・学校評価項目の学習及び学校行事について、生徒、保護者の肯定的評価「そう思う」の評価を高めるよう取組の質を高める。

・学習に関する項目(授業が理解できているか)で「そう思う」20%以上→H29:15%/肯定的評価全体約 75%、学校行事に関する項目(自主性を育てるものとなっているか)で生徒、保護者各グループで+5%以上→H29:35%、19%/肯定的評価全体約 85%